

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

1/5



- 歌 決
- ○ 1 わが衣手は 露にぬれつつ
- ○ 2 衣ほすてふ 天の香具山
- ○ 3 長々し夜を 独りかも寝む
- ○ 4 富士の高嶺に 雪は降りつつ
- ○ 5 声聞く時ぞ 秋は悲しき
- ○ 6 白きを見れば 夜ぞ更けにける
- ○ 7 三笠の山に 出でし月かも
- ○ 8 世をうぢ山と 人はいふなり
- ○ 9 我が身世にふる ながめせし間に
- ○ 10 知るも知らぬも 逢坂の関
- ○ 11 人には告げよ 海人の釣り舟
- ○ 12 をとめの姿 しばしとどめむ
- ○ 13 恋ぞつもりて 淵となりぬる
- ○ 14 乱れそめにし 我ならなくに
- ○ 15 我が衣手に 雪は降りつつ
- ○ 16 まつとし聞かば 今帰り来む
- ○ 17 唐紅に 水くくるとは
- ○ 18 夢の通ひ路 人目よくらむ
- ○ 19 逢はでこの世を 過ぐしてよとや
- ○ 20 みをつくしても 逢はむとぞ思ふ

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

2/5



- 歌決
- 21 有り明けの月を待ち出でつるかな
- 22 むべ山風を嵐といふらむ
- 23 我が身一つの秋にはあらねど
- 24 紅葉の錦神のまにまに
- 25 人に知られでくるよしもがな
- 26 今一度の行幸待たなむ
- 27 いつ見きとてか恋しかるらむ
- 28 人目も草もかれぬと思へば
- 29 置きまどはせる白菊の花
- 30 暁ばかり憂きものはなし
- 31 吉野の里に降れる白雪
- 32 流れもあへぬ紅葉なりけり
- 33 しづ心なく花の散るらむ
- 34 松も昔の友ならなくに
- 35 花ぞ昔の香にほひける
- 36 雲のいづこに月宿るらむ
- 37 貫き止めぬ玉ぞ散りける
- 38 人の命の惜しくもあるかな
- 39 あまりてなどか人の恋しき
- 40 物や思ふと人の問ふまで

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

3/5



- 歌 決
- ○ 41 人知れずこそ 思ひ初めしか
- ○ 42 末の松山波越さじとは
- ○ 43 昔は物を思はざりけり
- ○ 44 人をも身をも恨みざらまし
- ○ 45 身のいたづらになりぬべきかな
- ○ 46 ゆくへも知らぬ 恋の道かな
- ○ 47 人こそ見えね 秋は来にけり
- ○ 48 くだけて物を思ふ頃かな
- ○ 49 昼は消えつつ 物をこそ思へ
- ○ 50 長くもがなと 思ひけるかな
- ○ 51 さしも知らじな 燃ゆる思ひを
- ○ 52 なほ恨めしき 朝ぼらけかな
- ○ 53 いかにかに久しきものとかは知る
- ○ 54 今日を限りの 命ともがな
- ○ 55 名こそ流れて なほ聞こえけれ
- ○ 56 今一度の逢ふこともがな
- ○ 57 雲隠れにし 夜半の月かな
- ○ 58 いでそよ人を忘れやはする
- ○ 59 傾くまでの月を見しかな
- ○ 60 まだふみも見ず 天の橋立

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

4/5



- 歌決
- 61 今日九重に 匂ひぬるかな  
よに逢坂の 関は許さじ
- 62 人づてならで いふよしもがな  
あらはれ渡る 瀬々の網代木
- 63 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ  
花より外に 知る人もなし
- 64 かひなく立たむ 名こそ惜しけれ  
恋しかるべき 夜半の月かな
- 65 龍田の川の 錦なりけり  
いづこも同じ 秋の夕暮れ
- 66 芦のまろやに 秋風ぞ吹く  
かけじや袖の 濡れもこそすれ
- 67 外山の霞 たたずもあらなむ  
はげしかれとは 祈らぬものを
- 68 あはれ今年 秋もいぬめり  
雲居にまがふ 沖つ白波
- 69 われても末に あはむとぞ思ふ  
幾夜寝覚めぬ 須磨の関守
- 70 もれ出づる月の 影のさやけさ  
乱れてけさは 物をこそ思へ
- 71
- 72
- 73
- 74
- 75
- 76
- 77
- 78
- 79
- 80

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

5/5



- 歌 決
- 81 ただ有り明けの月ぞ残れる
- 82 憂きにたへぬは涙なりけり
- 83 山の奥にも鹿ぞ鳴くなる
- 84 憂しと見し世ぞ今は恋しき
- 85 閨のひまさへつれなかりけり
- 86 かこち顔なるわが涙かな
- 87 霧立ちのぼる秋の夕暮れ
- 88 みをつくしてや恋ひわたるべき
- 89 忍ぶることの弱りもぞする
- 90 濡れにぞ濡れし色は変はらず
- 91 衣かたしきひとりかも寝む
- 92 人こそ知らね乾く間もなし
- 93 海人の小舟の綱手かなしも
- 94 ふるさと寒く衣打つなり
- 95 我が立つ袖に墨染の袖
- 96 ふりゆくものは我が身なりけり
- 97 焼くや藻塩の身もこがれつつ
- 98 みそぎぞ夏のしるしなりける
- 99 世を思ふ故にもの思ふ身は
- 100 なほあまりある昔なりけり